

科学研究費成果報告書「近現代日本の政策史料収集と情報公開調査を踏まえた政策史研究の再構築」(基盤研究(B)(1)、代表者伊藤隆平成15・16年度、代表者伊藤隆、課題番号:15330024)より

出張報告書の概要と成果

平成15、16年度に行なった出張調査は、いずれもこれまでの研究の継続調査や補充調査と位置づけられる。調査にあたっては目録(あるいはその複写物)や史料の提供など、調査対象の機関や個人から多大な協力を賜ったことを感謝したい。

本節では、当該年度に行なった調査対象機関や調査史料、成果などの概要を、調査の日付順にまとめた。記述形式や内容に不統一があるのは、各調査者から提出された出張調査報告書をもとに作成したためである。

なお、本章の記述を参照される際の注意点であるが、収集した目録の内容の公開に関しては各史料所蔵機関への事前の確認が必要なものが含まれている。この点については留意されたい。

①調査者 伊藤 隆(政策研究大学院大学教授)
黒澤 良(政策研究大学院大学教務補佐員)
奥健太郎(武蔵野大学非常勤講師)

調査期間 平成16年2月15日～18日

調査機関 永田秀一家
岡山大学附属図書館
関西高等学校
犬養木堂記念館

調査目的

今回の出張では、兵庫県三原郡緑町の永田秀一氏宅にて、永田秀次郎(東京市長・拓相・鉄相など)、永田亮一(衆議院議員・自治政務次官など)の関係史料を調査、収集することを主たる目的とし、あわせて岡山県の岡山大学附属図書館と関西高等学校、犬養木堂記念館で所蔵史料の調査を行なった。岡山県を含む山陽地方については、すでに季武嘉也氏と西川誠氏とが調査を行っており、今回の岡山での調査は、その補足調査の性格を有する。季武氏と西川氏の調査の概要は、平成13年11月、平成13年度～14年度科学研究費補助金 基盤研究(B)(1)「日本近代史料情報機関設立の総括的かつ細目に関する研究」成果報告書を参照されたい。

1) 調査機関 永田秀一氏宅(伊藤・黒澤・奥)

調査史料 永田秀次郎・永田亮一関係文書

成果

永田秀次郎の孫、永田亮一の長男にあたる永田秀一氏(兵庫県議)宅を訪ね、蔵の中で長年保管されていた秀次郎と亮一に関する史料の調査と収集を行なった。収集した史料については、今

後整理をすすめていく予定である

永田亮一後援会の機関誌『創流』5号（昭和57年1月）、同6号（昭和57年9月、永田亮一政治年表を掲載）の複写を収集した。

2) 調査機関 岡山大学附属図書館（黒澤・奥）

調査史料 池田家文書ほか所蔵史料

成果

岡山大学附属図書館には、藩政資料及び池田元侯爵家襲蔵の図書が「池田家文庫」として収蔵されており、その目録は『岡山大学所蔵 池田家文庫総目録』としてまとめられている。平成4-5年には、同目録を再編集した『池田家文庫マイクロ版史料目録』も刊行されている。また、池田家文庫の関連史料として収集された近世庶民史料については『岡山大学所蔵 近世庶民史料目録』（全四巻）があり、若干ながらも明治から大正の時期の史料が含まれている。

このほか、同図書館には、旧制の第六高等学校の蔵書類が「六高文庫」として、元第六高等学校校長・元岡山大学教授である故黒正巖が蒐集していた百姓一揆に関する文献の一部が「黒正文庫」として収蔵されている。

岡山大学附属図書館では『岡山大学所蔵 近世庶民史料目録』第4巻の神立春樹氏による「解題」を複写し、『岡山大学附属図書館概要 2003』および図書館報『楷』第35号～第37号を入手した。

3) 調査機関 犬養木堂記念館（奥）

調査史料 同記念館所蔵の犬養毅関係文書

調査機関 犬養木堂記念館（面会者 学芸員・石川由希氏）

成果

犬養木堂記念館は、平成13年に季武嘉也、西川誠の両氏が出張調査をしており、その出張報告は、平成13～平成14年度科学研究費補助金基礎研究（B）（1）研究成果報告書『日本近代史料情報機関設立の総括的かつ細目に関する研究』に記載されている。そのため、今回の調査は、最新の史料情報と補足的な情報の収集を主な目的とした。

犬養木堂記念館では、寄贈および寄託の史料を約7000点収蔵しているという。しかし目録は現在のところ整備されておらず、そのため史料の閲覧にあたっては、どのような史料が閲覧したいのかを、あらかじめ特定する必要があるとのことであった。ただし同記念館では、現在所蔵史料の情報をコンピューターに入力中であり、いずれは冊子体あるいはWeb上の目録で公開するとのことであった。石川氏のお話によれば、今のところ完成の時期は定かでないという。

また最新の情報として、平成15年に犬養の次女多田信氏の遺族から、新史料（自筆の書簡、書、印譜など102点）が寄贈された。この史料の寄贈を伝える『山陽新聞』（平成15年9月2日）の記事のコピーを石川氏から頂いた。同記事によれば、その史料には肉親に宛てた犬養の書簡が含まれ、私人としての犬養を知る手がかりになる貴重な史料であるという。

収集資料 『研究紀要・第1号』（犬養木堂記念館、平成7年9月）
『研究紀要・第2号』（犬養木堂記念館、平成11年4月）
『犬養木堂記念館』（岡山県郷土文化財団）
『山陽新聞』（平成15年9月2日）の記事のコピー

4) 調査機関 関西学園 関西高等学校（黒澤）

調査史料 松本文庫・次田文庫（難波俊成氏）

成果

関西高等学校では、「松本文庫」・「次田文庫」の調査を行なった。

「松本文庫」は、戦前に内務省警保局長や社会局長官、戦後には中央警察学校長、日本港湾協会会長などをつとめた松本学が、母校である関西高等学校に寄贈した書類・書籍類の総称である。

松本学に関する史料は、関西高等学校以外に、二箇所分散して所蔵されている。国会図書館憲政資料室には、日記やスクラップブック、松本が関係した雑誌、著述類などが、警察大学校（補足調査を参照）には、旧蔵書と若干の書類のほか、松本の関係した諸団体の機関誌類が所蔵されている。そして、今回調査を行なった関西高等学校の「松本文庫」には、内務省警保局長であった時期の治安関係の書類と、内務省退官後に松本が設立した日本文化中央連盟の書類等が残されている。これらの書類は国会図書館憲政資料室でもマイクロフィルム版を利用することができる。他方、同文庫の書籍については、憲政資料室の目録に記載がないため、今回の調査でリストを入手することができた。

リストおよび書庫での調査から、同文庫には、春秋社『世界大思想全集』、岩波書店『東洋思潮』といった一般書が多いものの、『香川県警察史』（昭和9年、香川県警察協会）、『福岡県警察史』（昭和17年、警察協会福岡支部）といった内務省関係の書籍や伝記類も若干含まれている。警察大学校の蔵書印のある書籍が含まれているが、これは関西高等学校の「松本文庫」が、もとは警察大学校に寄託されていた松本の蔵書を、松本の没後に警察大学校と関西高等学校とで折半した経緯による（渡辺忠威『警察教育の先覚者たち』〔昭和57年、立花書房〕の「五 松本学先生」による）。

「次田文庫」は、戦前に内務次官や法制局長官、戦後には幣原内閣で国務大臣・内閣書記官長といった要職を歴任した次田大三郎が、その兄で大正11年から昭和5年まで関西中学教諭をつとめていた次田左馬五郎と自分の蔵書とをあわせて関西高等学校に寄贈した書籍類の総称である。寄贈された書籍類の整理中に発見された幣原内閣書記官長時代の次田の日記については、すでに『次田大三郎日記』（平成3年、山陽新聞社）として出版されている。今回の調査では、「次田文庫」に含まれる書籍類についてのリストを入手することができた。リストによれば、同文庫は和漢書が多く、洋書や伝記類も若干含まれている。

書庫での調査ののち、「松本文庫」と「次田文庫」の受け入れの経緯、松本と次田と関西学園との関わりなどについて、校史資料室の難波俊成氏より、お話を聞くことができた。また、同氏より、関西高等学校校誌『みかど』復刊48号（平成9年3月）、『岡山・十五年戦争資料センタ

一年報』2号(2000年)をいただいた。なお、関西高等学校には、松本・次田文庫のほかに、毎日新聞社長であった梅島貞の「梅島文庫」、関西学園理事長であった菊池三郎の「菊池文庫」が設けられている。

関西高校での調査を終えたのち、県立図書館の機能をもつ岡山県総合文化センター(岡山市天神町)の郷土史料室でも調査を行なったが、新たな情報を得るには至らなかった。

収集目録 「松本文庫」・「次田文庫」蔵書リスト

(ともにパソコン検索の結果をプリントアウトしたもの)

(補足調査—黒澤)

松本学関係の資料調査のため、別途警察大学校でも調査を行なったので、その概要を付記しておく。

調査機関 警察大学校(坂元正氏)

調査実施日 平成16年3月25日

成果

警察大学校図書館所蔵の「松本文庫」について調査を行なった。上述の渡辺忠威『警察教育の先覚者たち』によれば、松本の遺族から警察大学校へと寄贈された蔵書は、当初約2500冊であったという。「松本文庫」については、平成7年に山川出版社より刊行された『松本学日記』の伊藤隆氏による解題に、「旧蔵書を主体とするが、松本の関係した諸団体の機関誌などで他の図書館に所蔵されていないものもあり(中略)若干の書類も含まれている」とある。

今回の調査では、警察大学校警察政策研究センターの坂元正氏に松本文庫の現状についてお話をうかがったが、書籍が分野ごとに分類されて書棚に配架されていることから、松本文庫の詳細は把握できなかった。なお、警察大学校図書館は、一般に開放されておらず、今回も学校長の許可を得て調査が可能となったものである。

②**調査者** 武田知己(大東文化大学法学部専任講師)

調査期間 2004年2月17日～19日

調査機関 佐賀県立図書館

佐野記念館

きつき城下町資料館

調査目的 今回の調査は、佐野常民関連文書と綾部健太郎関係文書の調査を主たる目的として、佐賀県立図書館、きつき城下町資料館の二つの機関で調査を行った。また、結果的に、佐賀県立図書館にある他の近代関係文書にも若干の調査を行った。

1 佐野記念館(佐賀県佐賀郡川副町早津江)、佐賀県立図書館(佐賀県佐賀市)

佐野記念館は、武田が調査当時は中川副公民館内に付属される形で設置されていたが、その後、体験学習施設として移転改修された。2004年2月当時、佐野の遺品を中心に展示がされていた

が、赤十字関連、訪欧関連の資料の殆どは複製であり、現物は日本赤十字や公文書館などにあるものである（2004年10月に常設展の展示図録が作成されている）。

佐賀県立図書館には佐野常民の日記などの一部が保管されている。寄贈者は佐賀県佐賀郡川副町の副島静雄氏で、「JAARBOEKJE1868年」「露西亜語」「覚書」「日記安政五午歳～七申歳」「明治七年在欧雑誌」「安政六歳 数理時習」の6点である。『佐賀藩幕末関係文書調査報告書昭和55年度文化祭保存事業』（佐賀県立図書館、昭和56年）で日記の分が復刻されている。

他に佐賀県立図書館では、明治行政関連史料や江藤新平、鍋島文庫、その他地方の近代史関連史料がある。江藤の文書は北泉社によってマイクロ化されており（明治期初期政治資料集成1『江藤新平関係文書』1989年）、国会図書館憲政資料室でも閲覧可能である。また、幕末に小さくない役割を果たした佐賀藩関連の資料は、既に九州大学九州文化史研究所や国会図書館などの手により昭和30年代から調査されており、その後、『佐賀藩幕末関係文書調査報告書昭和55年度文化祭保存事業』（佐賀県立図書館、昭和56年）なる詳細な調査報告書もものされている。また、A. コビング『幕末佐賀藩の対外関係の研究』（鍋島報効会、平成6年）が佐賀藩の具体的研究として詳細に上記史料群を用いている。この他の近代史料も存在するかもしれないが、佐賀在県の関連資料は概してよく調査されている印象を受けた。

収集資料

- A. コビング『幕末佐賀藩の対外関係の研究』（鍋島報効会、平成6年）
『佐賀藩幕末関係文書調査報告書昭和55年度文化祭保存事業』（佐賀県立図書館、昭和56年）
『佐賀県明治行政資料目録／江藤家資料目録』（佐賀県立図書館、昭和58年）

2 きつき城下町資料館（大分県杵築市）

大分県杵築市には、戦後に衆議院議長を勤めた綾部健太郎の資料が保管されている。かつて行われた展示会の展示図録の中に収蔵資料一覧があるが、その他の資料は存在していないことを確認した。また、綾部家にも存在しないとの連絡を受けた。

現在所蔵されているものは、辞令の類であって、書簡・日記・書類などは現在まで確認されていないことになる。

収集資料：

「第18回企画展 元衆議院議長 綾部健太郎の軌跡」 きつき城下町資料館 2001年8月1日～9月30日

③調査者 西川 誠（川村学園女子大学文学部助教授）

千葉 功（昭和女子大学 人間文化学部専任講師）

調査期間 平成16年8月3日～4日

調査機関 青木周蔵那須別邸

(応対者：案内係 秋葉洋子氏 加藤梨恵氏)

調査史料 青木周蔵関係文書

青木周蔵那須別邸（以下青木邸）は、“道の駅「明治の森・黒磯」”のなかにある一機関で、(財)黒磯市農業公社が管理している。対応したお二方の説明に依れば、青木家から栃木県に寄贈され、黒磯市が管理を委託され、農業公社が管理運営しているとのことである。なお平成11年に重要文化財に指定されている。

青木邸にある史料は、青木家からの寄託文書が中心である。坂根義久氏の整理になる番号を基にリストが作成されており、複写物を受領した。また展示にあたっては青木周蔵の伝記を書いた水沢周氏がキャプション等の作成に協力したとのこと、水沢氏が購入した史料も寄贈されており、同じリストに整理されていた。

収集資料 史料リスト（正式なタイトルはない）
「青木周蔵那須別邸」（パンフレット、コピー）

④調査者 西藤 要子（宮内庁書陵部事務補佐員）

調査期間 平成16年10月16日～18日

調査機関 種子島・西村家

種子島開発総合センター（鉄砲館）

調査目的

今回の出張では、大阪朝日新聞の主筆で後に宮内省御用掛として詔勅の起草などにあたった西村天四（時彦）の関係史料を調査、収集することを主たる目的とし、種子島在住の天四子孫である西村貞則氏所蔵分および、種子島開発総合センターへ寄贈された西村家資料、さらに開発総合センターにて所蔵の他の西村関係資料についての調査を行なった。

1) 調査機関 西村貞則氏宅

調査史料 西村天四（時彦）関係文書

成果

種子島の西村家を訪ね、天四自筆の草稿、新聞記事のスクラップ、アルバム等を調査した。一部の書翰類、履歴資料等は既に宮内庁書陵部において調査、文書整理が行なわれているので、今回はそれ以外、周辺資料についての調査が主となった。

西村家では、アルバム貼り込みの関係者写真及び自筆草稿の一部について、デジタルカメラによる資料複写により収集した。

2) 調査機関 種子島開発総合センター（鉄砲館）

調査史料 西村家寄贈資料、および他家寄贈資料のうち西村天四関係資料

成果

天四着用の大礼服など実物資料が西村家よりセンターへ多数寄贈されている。その多くはセン

ター内の一コーナーにおいて展示もされており、その現状を調査した。また晩年に近い時期の自筆原稿類、天囚著書（出版物）などについてデジタルカメラによる仮の資料複写を行なった。

このほか同センターには種子島在住の西村家縁戚関係諸家からの資料寄贈も受けており、その中に天囚に関連するものも少なくないため、人物の相関関係の把握と共に細かい目録の採取を行なった。